

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093300046
法人名	医療法人社団 原道会
事業所名	まりしの郷里 みち
所在地	福岡県宗像市東郷6丁目2番19号 (電話) 0940-36-2625

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 4月 20日	評価確定日	21年 5月 28日

【情報提供票より】 (平成21年 4月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	11人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.35人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	320 円	昼食	480 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年 4月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	摩利支病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心に立地し、静かで落ち着ける環境である。居室の面積はゆったりとしており、内装もシックな作りであり落ち着ける。屋上緑化を行っており、周囲の風景とともに花と緑を楽しませてくれる。敷地内に母体法人である病院があり、内科を中心に複数の診療科を有している。また、近年は生活リハビリに力を入れている。事業所と病院との連携が密であり、介護、福祉、医療の統合能力は高い。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が外部評価は初回である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で作成し、ミーティング等で意見を調整し改善に向けての取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催し、現状報告を行っている。利用者や介護サービスの現状の報告等、毎回テーマを決めて質疑応答を行っており、行政担当者や地域の代表者、家族会の代表が参加し、出された要望、意見の実現と改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の来訪時に手紙や写真を渡し利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。家族会を三か月に一度開催し家族の意向を把握し、運営に反映させる取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事に参加している。近隣の保育園児を招いたり、実習生の受け入れを行う等、地元地域との交流を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で独自の理念を作り上げ、地域密着の視点を共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングや、申し送り時に管理者が中心になって、理念を確認し、その理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。近隣の保育園児を招いたり、実習生の受け入れを行う等、地元地域との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で作成し、ミーティング等で意見を調整し改善に向けての取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	定期的開催し、現状報告を行っている。行政担当者や地域の代表者、家族会の代表が参加し、出された要望、意見の実現と改善に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業者ネットワークの連絡会を立ち上げ、行政担当者と連携を図り積極的に取り組みを行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を受講した職員が伝達研修を行う等全職員に周知を図っている。利用開始時に本人・家族に制度について説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に手紙や写真を渡す等利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理については現在行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を三か月に一度開催し、意見を聴くようにしている。また、家族の来訪時に声かけを行う等意見・要望を聴取し、運営に反映させる取り組みを行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、定期的に面談を行い離職をなくす取り組みを行っている。やむを得ない異動の場合には、引継期間を十分に設けて利用者に配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては常に公平性を持ち、性別・年齢で排除しないようにしている。勤務時間については、職員のニーズに合わせて柔軟に対応している。職員教育への取り組みも積極的である。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修に参加した職員が、他の職員に伝達研修を行っている。事業所に報告書、資料等を整備し研修記録が残されている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員のスキルアップに関しては前向きであり、日常的に学ぶことを推進している。研修内容を全職員が共有できる様に伝達研修を行う仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会に加入し、事例検討会等に参加している。また、他の事業所に職員を派遣する等交流し勉強会を行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学、自宅訪問、病院訪問を行っている。利用開始後も家族に宿泊をお願いする等利用者が安心できるよう取り組みを行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け、寿司の作り方、掃除の仕方等を職員が知らない生活の技を利用者から教えて貰う場面がある。お互いが協働し支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者に一日の過ごし方の希望や思いを聞くなどして意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には家族からの情報を得る等対応を工夫しながら適切な把握を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意見・要望を聴き担当職員と計画作成担当者が協議し、気づきや意見を反映して作成している。家族へ説明を行い、同意の署名と捺印を貰っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月で見直しを行っている。また利用者の状態変化に応じて現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院や送迎の援助を行っている。本人や家族の状況や要望に応じて、医療機関と連携を図り、訪問看護や点滴治療を受けながら生活を継続できるように柔軟に対応している。早期退院に向けた支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に、本人・家族とかかりつけ医や希望する医療機関について話し合いを行なっている。かかりつけ医に家族が付添う場合は、家族・医師との情報交換を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に重度化した場合の話し合いを持っている。本人・家族の意向を尊重し、主治医と職員で相談し合意を図り全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、利用者に対してプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。また、個人情報の取り扱いについては研修等で職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、希望があれば朝食時間をずらしたり、散歩や買物等に応じたりと、希望に添った支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけを一緒にし、利用者の見守りと介助を行いながら、全員が同じ食事を食べている。利用者の好みも取り入れた献立が提供されている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の要望や状況に応じて柔軟に支援している。入浴拒否の利用者はいないが、入浴の楽しみを分かってもらえるように支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の興味や出来ることを把握し、日々の生活の場において得意なことを発揮できる場面づくりを支援している。菜園での収穫や金柑の甘露煮、干し柿作り等も利用者の楽しみになっており支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候等に配慮して、概ね毎日の散歩、週3～4回の買物、週2回程度のドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握して見守りを行っている。事業所より近隣に協力依頼を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。避難訓練、避難経路の確認を消防署の協力を得て行った。	○	地域住民にも、参加・協力の依頼を行ってほしい。また、非常用食糧や備品も準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録は全利用者分ある。管理栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成し、健康状態や咀嚼にあった調理を行い、利用者の希望や嗜好も反映する仕組みとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に花が飾られ、居間の畳み敷きやソファは利用者のいこいの場所となっている。不快な音や光もなく換気への配慮も行っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの小物や家具を持ち込み、家族の写真等が飾られている。その人らしさを尊重し、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。